



# 水の文化 脱 水

# まわり



- 藤森照信「家の中心は水まわり」
- 中田 誠「集合住宅の近代化」
- 北川圭子「ダイニングキッチンの誕生」
- 前田裕子「現代のトイレ志向をつくった技術改革」
- 杉本節子「町家の暮らし」
- 藤原智美「家は家族の記憶装置」
- 水の文化楽習実践取材「守るものと生まれ変わるもの」
- 山口昌伴「暮らしのプランありき」
- 古賀邦雄 水の文化書誌「水まわり」

水の文化 February 2009 No.

# 31

水の文化  
2009  
31



## ミツカン水の文化センター

表紙上：輝くステンレス流し台は、漏らない、腐らない、染みつかない、陶器を落としても割れない、大量生産が利く…と、いいことづくめ。でも、洋食屋のステンレスの皿と同じで、どこか味気ない。

表紙下：庭がある人には、外流しをお勧めしたい。泥付き野菜や糠、雑巾などは、外流しで洗って地下浸透に。現代人には、座り式より立ち式のほうが使い勝手がいい。

裏表紙上：「いただきます」。口から入る食物は、身体だけでなく、心を育ててくれる大切な糧だ。

裏表紙下左：汲んで、溜めて使えば、ご覧の通りに排水は「地中浸透」で充分。土に戻らないものを使わなかったから、という理由も大きいのだが、ジャージャー流しっぱなしにはできないのだから当然の成り行きだ。(撮影協力/江戸東京たてもの園)

裏表紙下中：流しに続き、電も床の上に進出してきた。板の間に上がった電の珍しい例。(撮影協力/江戸東京たてもの園)

裏表紙下右：現在、人糞は肥料としての使用が認められない。薬をはじめ、何を摂取しているか不明瞭だからだ。肥料にして悪いものは、身体にも良いとは思えない。水まわりの復権のためには、考えるべき事柄がたくさんある。

